

## 平成30年度「みえの現場“やっぱし” すごいやんかトーク」(南伊勢町)の概要

平成30年10月31日(水)「わかくさ園」にて「みえの現場“やっぱし” すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「河内青年團」の皆さんから、活動への思いや今後の課題などについてお話を伺いました。



自己紹介、団体の活動概要の紹介の後、知事とフリートークを行いました。

### 【参加者からの発言】

Q 活動を通じてよかったこと、達成感を得られたことなどを聞かせてください。

○一人暮らしの高齢者が増える中、皆で集まって賑やかに食事をするのできる場所を作りたいという思いから「わかくさ食堂」を始めました。お客さんから「営業日である日曜日が待ち遠しい。」と言ってもらえるようになり、やりがいを感じています。

○食堂を始めて間もなく1年になりますが、お客さんからは、「何を食べてもおいしい。」という言葉をいただいています。

○「わかくさ園」を始めてから、地域の方が周辺に花を植えてくれるようになりました。河内地区を訪れる人にきれいな風景を見ていただきたいという思いからだと思います。

- 青年團として活動する私の姿を、自分の子どもがよく見てくれています。それは、子ども自身が地域のイベントを手伝う際に、自分で考えて動くようになってきたことで感じました。子どもの成長を感じられ、良い教育の場にもなっていると思います。
- 地区外からも食堂に来てもらえるようになり、やりがいを感じています。若い方にもたくさん来てもらいたいです。
- この食堂は、幅広い年齢の人が集まる場所となってきました。食事をしながら、外で遊ぶ子どもを皆で見守っています。
- 仲間と助け合うことで、仕事と青年團の活動を両立しています。
- 「わかくさ園」を取り壊さず残したことで、年齢を問わず町内外から多くの人が集まってくれるようになったことが一番嬉しいです。県外へ転出された方が帰省した時などに来てくれ、昔、この保育園に通っていた思い出を懐かしく思ってくれることもとても嬉しいです。
- 世代や職種を超え、交流できることがありがたいです。地元にいる時間、地元を想う時間が増えました。

**Q 今後の夢や課題について教えてください。**

- 「わかくさ園」を、皆が自由に利用できる場所にすることが夢です。この建物をいつまでも残していきたいです。
- 南伊勢町は自然が多いところですが、遊ぶ場所が少ないです。より多くの人に訪れてもらうためにも、スケートボードができる場所や海で遊ぶことができる場所を今後作っていくことができると考えています。
- インバウンド向けに陶芸や農業体験などを計画しているので、その企画を実現させ、海外からも多くの人に来ていただけるような町にしていきたいと思っています。

**【町長の発言】**

- 皆さんは、地元のシンボルである「わかくさ園」を甦らせ、小麦を栽培して休耕地を復活させてくれました。私自身、この場所を訪れるたびに河内地区が生き返っていくように感じています。町内外から人が集まる楽しい場所を、地域の人が作ってくれたということは、とても素晴らしいことです。
- 皆の思いがあれば、この建物はずっと続いていきます。これからはしっかりと河内地区を盛り上げていただき、そしてその機運が南伊勢町全体へ波及してほしいと思います。

**【知事の発言】**

- 「みえの子ども白書」におけるアンケート調査によると、地域の大人に見守られていると感じる子どもは自己肯定感が高いという結果がありますので、そういう意味で

も、子どもたちにとってここは良い環境であると思います。

〇みえ県民カビジョンでは、3つの「新しい豊かさ」の実現をめざしており、その一つとして、これまでは積極的に豊かさにとらえてこなかった「つながりの豊かさ」を高めることを掲げています。皆さんは、まさにそれを実践されているのだと思います。〇皆にとって思い入れのあるものを再生することが、地域を元気にする源なのだと改めて感じました。



「河内青年團」は、取り壊しの決まった保育園「わかくさ園」を地元のシンボルとして残したい、河内地区を盛り上げたいという思いで結成されました。

団体の主な活動としては、「わかくさ園」で毎週日曜日に「わかくさ食堂」をオープンしたり、地域内外を問わず多くの人が集まるイベントを開催しています。現在は、地域の耕作放棄地を活用し小麦などの栽培も行っています。